

## 大きな変化の中にある学校で

福井県小学校長会

会長 小林 利 幸



会員の皆様が教職についてから今日まで、時代の移り変わりの中で学校も少しずつ変化してきました。しかし、今までの三十数年に比べ、ここ1、2年は、コロナウイルス感染症蔓延や学校の一斉休校など経験したことのないことが次々と起こっています。今までの常識では判断できないことを前に、校長先生方は日々悩まれているのではないのでしょうか。

どのような環境であろうと、学校には未来を担う子どもたちがいます。私たち校長は、多方面から得られた情報をもとに、教職員や保護者、さらには地域と協力して学校の教育活動を進めていかなければなりません。

1点目は、コロナウイルス感染症への対応です。年度当初は感染状況も落ち着いていましたが、徐々に感染状況が悪化し、学校内での感染という問題に直面した学校もありました。感染防止のために休校の措置をとった学校や行事の予定変更を行った学校など、各学校の置かれた状況は違えども、何らかの対応を迫られ、先行きに不安を感じたものです。

そのような危機を乗り越えるために校長同士で情報交換し、対応策を共有する動きも県下のあちこちで見られました。改めて組織としての校長会や会員の皆様の結束の大切さを感じました。

コロナウイルス感染症との戦いは今後もまだ続くことが予想される中、県や市町が、学校現場での感染拡大防止のため教職員にワクチンの優先接種を進めていることにも感謝したいと思います。守るべきは子どもたちですが、その子どもたちにとって最大の教育条件は教職員の健康・安全であるということが社会で理解されてきていることの表れだと思います。

2点目は、新学習指導要領や福井県教育振興基本計画の理念に沿って子どもたちの学びを進めていくことです。主体的で対話的な深い学びを進めていく前に立

ちはだかるのは、やはりコロナウイルス感染症です。感染防止のための制限はありますが、徐々に以前のようペアやグループで学ぶ場面も見られるようになってきました。また、自ら学ぼうとする子どもたちの意欲を高めてくれているのが、今般GIGAスクール構想で整備された、タブレット端末と高速通信ネットワーク環境です。

教職員が、子どもたちと一緒に楽しみながら、遊び感覚でタブレットの活用に挑戦する姿が各学校で見られるようになってきました。校長として、各学校での教職員の挑戦の芽を摘まずに、教職員が安心して新たなことに挑戦できるよう見守り、励ましていきたいものです。

3点目は、働き方改革です。小学校では時間外在校等時間が80時間を超える教職員はゼロになっていないのでしょうか。次の目標は45時間以内です。本校でも、市の取組により、夕方から翌朝の電話を音声案内に切り替えたり、6限目等をカットし下校時刻を早めたりすることで、放課後の教職員の業務時間を確保する取組を進めています。実は下校時刻を早める取組は、子どもに時間を返すことにもつながり、子どもたちにも好評です。

校長としては、教職員が長時間労働により心身の健康を損なうことがないように気を配ると同時に、地方公務員の定年延長や教員免許更新制度の廃止が検討されていることなども伝え、教職員の人生設計の相談に乗ることも必要になってきています。

社会の変化に柔軟に対応し、学校で当たり前に行われていることが子どもの自己肯定感を大切にしているか改めて問い直しながら、校長先生方ご自身が日々健康で過ごしていただけたらと思います。

## 県教育長挨拶

福井県教育委員会  
教育長 豊北 欽一



福井県小学校長会の皆様におかれましては、日頃より本県の教育力向上のためご尽力いただいていることに敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

2020年度からの5か年計画「福井県教育振興基本計画」では、「一人一人の個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり」を基本理念に、子どもたち自らが挑戦し協働する力を育む学びへと舵を切りました。

教育長としての私の持論ですが、真の学力とは、自ら学ぼうとする力、自分が分からない点を分かろうとする力であり、自分で分からなければ周りの人の力を借りて理解しようとする力であるとらえています。

その真の学力を育む授業づくりを通して、「一人一人が生涯にわたって、自ら学び、新たな可能性に挑戦する、創造性豊かな人材の育成」と「多様な個性や価値観を認め合い、一人一人が自分らしさを発揮できる“全員参加型”の共生社会の実現」を目指していきたいと考えています。

そこで、校長先生方にお伝えしたいことを5点記します。

1点目は、「引き出す教育」「楽しむ教育」です。各学校におかれましては、子ども自身に自らの個性に気付かせ、伸ばしていく「引き出す教育」や、子どもたちが知的好奇心や探究心をもって、学びを自ら進んで「楽しむ教育」を実践していただいております。各学校から挙げられたテーマを拝見しますと、「ICTを活用して、子どもの興味・関心を引き出す授業づくり」「子どもが主体的に取り組む委員会・クラブ活動」など、子ども主体の特色ある学校づくりを推進していただいていることが伺えます。秋には、1テーマを取り上げて意見交換会を開催します。講師による講演、子ども同士のグループセッション、講師と参加者によるディスカッション等の内容を予定しています。小中学生の子どもたちに参加してもらいたいと考えていますので、奮ってご参加ください。

2点目は、タブレット端末の活用です。小学校にも一人一台タブレットの環境が整備されました。新しい環境に戸惑われているかもしれませんが、普段の授業において、「資料画像のプリントを配付しなくても画面にパッと表示できる」「タブレットを使った意見交換では、今まで発言が苦手だった子どもも自分の考えを示すようになった」等、効果的なツールとして活用されていると聞いています。コロナウイルス感染拡大や大雪による休校時には、持ち帰りで授業を実施することも可能になりました。今年度、県ではタブレット端末を活用した「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」や「ふるさと福井CMコンテスト」を開催します。プレゼンやCM作成のノウハウを学べるよう、7月には、小学生を対象に、前田謙利氏(プレゼンテーション協会代表理事・書家)によるプレゼン力向上セミナーを実施しました。9月には、小中学生を対象に、矢納正人氏(元福井テレビ制作局長)によるCM作成講習会を開催予定です。当日参加できない人はオンデマンド限定配信への申込も可能です。子どもたちの様々な学びの場を

提供していきますので、これらの機会を上手に活用していただけたら幸いです。

3点目は、学校教育におけるDX事業です。個別最適な学びの充実と「引き出す教育」「楽しむ教育」の推進を図るため、県ホームページ上に、子どもたちの学習に役立つ様々な学習のコンテンツや教員が活用できる資料などをアップしています。教材や情報は、随時更新しているので、是非ご活用ください。また、今年度、県学力調査における「生活や学習、学級に関する調査(SASA質問紙調査)」を「タブレット端末等を使用した質問調査(Googleフォームを活用)」に移行します。調査終了後、直ちに学校で回答状況を把握できるようにすることにより、迅速な授業改善や学習支援、学級経営、学校経営に活用できるとともに、複数学年で継続的に質問調査を実施することにより、経年比較が可能となります。その他、保護者への文書のデジタル配信、不登校児童生徒への学習支援などについても検討しています。

4点目は、働き方改革です。今年度末までに、時間外勤務80時間以上をゼロにするという目標を掲げ、各市町教育委員会や各学校等と協力しながら、教員の働き方改革を進めています。令和2年度の月80時間以上の超過勤務者は延べ3,744名で、令和元年度に比べ、29.1%減少(小・中・県立学校全体の数字)しました。しかし、小学校では増加しており、令和元年度より334名増えて861名という状況です。これは小学校教職員全体の2.3%に相当します。新型コロナウイルス感染症対策に係る対応等が一因であることは想像に難くないとはいえ、教職員が心身の健康を損なうことのないよう、業務の質的転換を図り、限られた時間の中で子どもたちに接する時間を十分に確保し、子どもたちに真に必要な総合的な指導を持続的に行っていただきたいと思えます。

5点目は、危機管理です。新任校長研修の講話資料においても触れましたが、校長先生方には、授業観察や校内の見回り、地域の方との会話を心がけていただきたいと願います。自ら動いて、ご自身の目で見て、児童や教職員の様子、地域の状況を把握してほしいのです。表情が暗い子、けがをしている子、汚れた洋服を着ている子、先生方の指導の仕方や子どもたちへの言葉かけ、登下校路の危険な箇所など、どれだけのことに逸早く気付くことができるかが肝要です。気になることは、些細な内容であったとしても、その日のうちに教頭先生や主任の先生、場合によっては関係機関と情報を共有し、対応を具体的に考えてください。危機管理の原則「さしすせそ」を記します。

「さ」…最悪を想定すること

「し」…指揮命令をはっきりさせ、慎重に対応すること

「す」…素早く動くこと

「せ」…正確な情報を入手し、誠意をもって対応すること

「そ」…組織で対応すること

学校だけで判断や解決ができない場合は、躊躇せず、県教育委員会や各市町教育委員会にご相談ください。学校長として危機管理能力を高めることが、子どもたちや教職員の命を守り、日常の教育活動、学校に対する信頼の維持につながります。

最後になりますが、小学校は地域の中心であり、保護者や地域の方々の学校への期待はとても大きいと存じます。子どもたちや保護者、地域の方々に信頼される学校づくりに向け、なお一層の取組をお願いいたします。

# 令和3年度 福井県小学校長会 活動方針

福井県小学校長会は、結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を積み重ねるとともに教育諸条件の整備・充実に努め、多大な成果をあげてきている。

これからの社会は、Society 5.0の実現に向けて急速に変化するとともに、グローバル化・少子高齢化・人口減少社会を迎え、労働構造も大きく変わっていくことになる。また、新型コロナウイルス感染症も収束の見通しが立たない状況であり、新しい生活様式による対応も今後も続くことが予想される。このような激しく変化する社会の中で、小学校教育においても、正解のない課題に立ち向かい、自立した人間として他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力の育成が求められている。本県においても「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり～子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進～」を基本理念とする新たな「福井県教育振興基本計画」が策定され、ふるさと福井への誇りと愛着をもち、自ら学び考え行動する力を育む教育が求められている。

こうした中であって、学校は、持続可能な社会の担い手の育成が求められ、新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身に付けるために、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力や人間性等」といった三つの力をバランスよく育む教育を実現するため、われわれ校長は、明確なビジョンを掲げ、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努めなければならない。また、ふくいの風土に根付いた教育文化のよいところを継承しつつ、子ども自身の個性に気付かせ、それを伸ばしていくような「引き出す教育」や、好奇心や探究心をもって学びを自ら進んで「楽しむ教育」を地域や家庭などとの幅広い連携・協働のもとで推進していかなければならない。

さらに、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す「GIGAスクール構想」の推進、英語教育の拡充・強化、いじめ等問題行動の防止に向けた人権教育と道徳の教科化、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など、対応すべき重要課題が山積している。また、危機管理体制の見直し、安全指導の充実、関係機関との連携を強化した防災教育の推進も喫緊の課題となっている。

このような状況の中で、校長は、現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育成果をあげていかなければならない。私たちは、組織の総力を挙げて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要がある。そのために、校長は自らの使命を自覚し、学び続け、権限と責任のもとに、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校・信頼に応える学校づくりに努めなければならない。

以上の方針を踏まえ、本年度は次の活動を重点として推進する。

## 本年度の活動の重点

- 1 学校経営の充実
- 2 研究活動の充実
- 3 持続可能な社会を担う児童に、「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善
- 4 教職員の資質・能力の向上
- 5 教職員の定数や処遇の改善、働き方改革の推進

これらの活動を推進するために、東海・北陸地区及び全国連合小学校長会との連携を一層密にして組織活動の充実に努めるとともに、関係諸機関・団体とも連携し、小学校教育に対する正しい世論の喚起に努める。

## 主な委員会と活動事項

### 1 専門委員会

#### ◇人事行財政対策委員会

義務教育費国庫負担制度の堅持、教職員の基礎定数及び加配定数の拡充、ICTを活用した教育の推進のための専門職員の配置促進、教科担任制の導入による教員の持ち時間数の削減、少人数学級の拡大を目指す学級編制基準見直しの促進、退職時の処遇の充実、働き方改革等への対策・要請活動を行う。

#### ◇調査研究委員会

今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題について調査研究し、対策に資する。

#### ◇教育研究委員会

研究主題を設定し、研究活動の推進および教育研究大会の企画推進を行う。

#### ◇編集広報委員会

「會報」の発行とホームページの更新により、情報の提供、成果の報告等を行う。

### 2 特別委員会

必要に応じて設置する。



### 人事行財政対策委員会

#### (要望活動・人対資料)

- 4月20日 ○第1回専門委員会  
(第1回小学校人対委員会)  
正・副委員長選出、活動方針・内容について協議等
- 5月11日 ○第1回小中合同人対事前打合せ会  
活動方針・活動計画の確認他
- 19日 ○県教委と日程・話題等の連絡調整
- 25日 ○第2回小中合同人対事前打合せ会  
当日の運営、参加者について
- 6月 ○各郡市でアンケートを実施、課題・話題等について集約・分析
- 7月 8日 ○第1回小中合同人対委員会
- 7月15日 ○第3回小中合同人対事前打合せ会  
当日の運営および話題等の最終協議
- 8月 6日 ○「県教育長と語る会」準備委員会  
話題、役割分担等について
- 26日 ○県教育長と語る会
- 9月 中旬 ○「県教育長と語る会」についての報告
- 10月 ○全連小人事対策研究協議会参加(委員長)
- 1月 下旬 ○第2回小中合同人対委員会  
全連小報告  
次年度に向けての課題の協議

### 調査研究委員会

#### (実態調査・調査報告)(全連小調査)

- 4月20日 ○第1回専門委員会  
正・副委員長選出、年間事業計画の作成  
調査テーマ、内容(項目)について
- 5月 中旬 ○調査内容についての会員の希望調査  
郡市ごとに希望調査、全体の集計
- 6月16日 ○第2回専門委員会  
調査研究項目・内容の決定  
調査方法・集計方法について
- 7月 上旬 ○各郡市において調査の実施、集計
- 8月 ○各郡市調査研究委員会  
担当項目の考察作成
- 9月29日 ○第3回専門委員会  
調査結果の分析、考察検討  
調査研究報告書の原稿作成
- 10月 中旬 ○第4回専門委員会(正・副委員長)  
原稿検討、調査結果分析、考察

- 10月 下旬 ○全連小調査研究協議会参加(委員長)
- 11月 中旬 ○報告書のデータ配信(校長会HP)  
県教委、地教委等へ報告書配付
- 1月 ○本年度活動のまとめ(アンケート)  
○調査研究概要報告  
各郡市調査研究委員が概要報告

### 教育研究委員会

#### (研究推進)(全国・東陸石川大会)

- 4月20日 ○第1回専門委員会  
正・副委員長選出、事業計画案作成  
県、東陸・全国教育研究大会について
- 6月 7日 ○第2回専門委員会  
県教育研究鯖丹大会について  
全連小・東陸石川大会確認
- 8月25日 ○県小学校長教育研究鯖丹大会(中止)  
福井型8分科会で郡市発表(誌上发表)
- 10月14日 ○全連小・東陸石川大会  
~15日 13分科会・全体会・シンポジウム
- 11月 ○「研究の手引き」作成完了・配付
- 2月 中旬 ○第3回専門委員会  
県教育研究鯖丹大会の反省等  
令和4年度各研究大会の概要

### 編集広報委員会

#### (会報発行・HP更新)

- 4月20日 ○第1回専門委員会  
正・副委員長選出、活動方針  
各郡市原稿割当の確認・決定等  
「会報」編集計画
- 5月 上旬 ○「会報」113号原稿依頼  
県教委・校長講話執筆者・新任校長への依頼  
○HP更新①
- 7月11日 ○一次校正締切
- 7月14日 ○全連小広報担当者連絡協議会  
(委員長) → 中止
- 8月 2日 ○第1回編集企画会議(正・副委員長)  
二次校正・編集作業
- 8月25日 ○第2回専門委員会(オンライン)  
「会報」114号企画・原稿依頼計画  
○「会報」113号発行
- 9月 中旬 ○「会報」114号原稿依頼  
○HP更新②
- 12月 3日 ○一次校正締切  
下旬 ○第2回編集企画会議(正・副委員長)  
二次校正・編集作業
- 1月 下旬 ○第3回専門委員会  
○「会報」114号発行
- 2月 ○HP更新③

## 校 長 講 話

## 『なまえのないねこ』を読んで

福井市社北小学校長  
中谷 忠裕

今日は、「なまえのないねこ」という絵本を紹介します。この猫に飼い主はいません。いつも街の中で暮らしています。そのため、誰にも名前を付けてもらったことはありません。呼ばれたとしても、ただの「ねこ」でした。けれど、街の中で出会う猫たちは、みんな名前をもっていました。くつやさんの猫は「レオ」、本屋さんの猫は「げんた」、おそばやさんの猫は「つきみ」と名前を付けられ、飼い主にかわいがられているのです。

あるとき、「なまえのないねこ」は自分にも名前が欲しいと思い、街中をいい名前がないか探し回りました。なかなか、いい名前が見つかりません。雨が降る日、公園のベンチの下で雨宿りしていました。名前も見つからず、聞こえてくる雨の音で、心が沈んでいくばかりでした。

そこへ、女の子が「おなか、すいてるの？」と声をかけてくれました。「きれいなメロンいろの目をしているね」との優しい言葉を聞いて、自分が欲しかったのは名前ではなかったことに気がきました。「なまえのないねこ」が欲しかったのは、名前を呼んでくれる人だったのです。きっと、自分を呼んでくれて優しく遊んでくれる人が欲しかったのでしょう。

皆さんは、自分の名前をもっています。この猫のように名前が欲しいとの思いになったことはないはずですが、しかし、自分の名前を誰からも呼んでもらえず、誰とも話をしない日が続いたら、どんな気持ちになるのでしょうか。きっと、雨降りの日にベンチの下で猫が感じたように、心が沈んでいってしまうでしょう。

名前をきちんと呼ばれることで、相手から認められているという感情が生まれます。自分の名前を呼んでくれる人に対して、親しみさえ感じるようになります。

絵本は、雨の降る中、女の子の傘に入りながら「なまえのないねこ」が一緒に歩く後ろ姿の場面で終わっています。きっと、この後、「なまえのないねこ」は女の子に名前を付けてもらい可愛がられたことでしょう。

悩んでいたり考え事をしたりしているとき、周りの人が心配して声をかけてくれると、心が落ち着きます。クラスの中で、あまり周りの子から話しかけられずに寂しい気持ちになっている人は、いませんか。そんな子がいたら、名前を呼んで話しかけてください。

雨降りのベンチの下にいる猫を見つけた女の子の優しい言葉は、「なまえのないねこ」の心を明るく優しい気持ちにさせました。優しい言葉は、周りの人の心を優しくします。優しい言葉が人から人へ伝わり、みんなが優しい気持ちで過ごせるクラスや学校にしていきたいでしょう。

## 『幸せ』とは（卒業式式辞の一部抜粋）

鯖江市神明小学校長  
林 和友

今日は皆さんにお話しできる最後の日ですので、人として誰もが願う「幸せ」についてお話しします。皆さんは「幸せとは何ですか？」と聞かれたら、どう答えられますか。お金持ちになること、健康であること、何でも思い通りになること、いろいろ考えられますね。そこで、それを考える参考にするために、神奈川県に在るチョークを作っているある会社の話をします。チョークとは、教室の黒板に字を書くときに使うチョークのことです。この会社については、テレビや本で何度も取り上げられているので聞いたことがあるかもしれませんが、会社のホームページなどに書かれていることをもとに話をします。

実は、この会社は全従業員88名という、それほど大きな会社でもないのですが、そのうちなんと約70%にあたる63名が知的障がい者の方だそうです。会社は84年の歴史があり、今から62年前に二人の障がい者を雇ったのが始まりです。当時の社長は「福祉施設にいればもっと楽な仕事ができるのに、なぜわざわざしんどい思いをするかもしれないうちの会社で働きたいのか？」と疑問に思い、ある禅寺のお坊さんに尋ねたそうです。するとお坊さんは「人間の究極の幸せは、一つは愛されること、二つ目は褒められること、三つ目は人の役に立つこと、そして四つ目は人に必要とされることです。福祉施設で大事に面倒を見てもらうことが彼らの幸せではなく、働いて人や社会の役に立つ会社こそが人間を幸せにするのです」と話されたのです。それを聞いた社長は、働いていれば時には辛いこともあるけれど、無心に働くことで社会に必要とされる幸せを感じていくことが彼らには大切であると思って最初の二人を採用したそうです。それ以降、この会社は知的障がい者の採用を増やし続け、現在では日本のチョーク生産の30%を占めるまでの大きな会社になりました。また、この気づきを社会に伝えていくことを会社の使命の一つだと考え、積極的に広報活動もしているそうです。

皆さんが小学校生活最後のこの一年間、新型コロナウイルス感染症に日本中いや世界中が振り回されました。私たちは、ウイルスに負けまいと新しい生活様式を学校に取り入れ頑張ってきました。しかし、このウイルスとの闘いに本当の命を賭けて最前線に立っている医師や看護師の皆さんがここまで頑張れたのは、おそらくこの「人の役に立ちたい」「人に必要とされたい」という強い意志をもっていたからだろうと思います。

皆さんもそう遠くない将来、仕事に就くことでしょうが、それがどんな仕事でも心を込めて一生懸命に取り組むことで人や社会のためになるのです。皆さんの本当の幸せを願っています。

## “はやぶさ2” 長期旅行の秘密

越前市国高小学校長  
北畑 一浩

ところで、皆さんは地球って知っていますか。見たことがありますか。

世界中のみんなが住んでいるこの星のことです（地球儀を用意しておいて提示する）。ここにある地球儀や図鑑や教科書などで写真を見たことがあると思いますが、実際には、大きすぎて見ることはできませんね。

（地球儀を見せながら）日本がこのあたりにあって、皆さんはちょうどここにいます。ラグビーワールドカップで優勝した、南アフリカの人はこのあたりにいます（人型の紙を張り付ける）。南アフリカの人はなぜ落ちてしまわないのでしょうか。

実は地球には重力というものがあるって、地球が人や車や物などすべてのものを引っ張っているんで、落ちはしないのです。このことを覚えていてください。

一昨日のニュースで、「はやぶさ2」が地球へ戻ってくるという話題がありました。「はやぶさ2」のことを知っていますか（写真を見せる）。地球から遠く離れた「りゅうぐう」という星にいます。「りゅうぐう」という星は、地球から8億キロメートル離れたところにあります。8億キロメートルの長さはどれくらい分かりますか。地球の一周が4万キロメートルと言われていますから、その2万倍の長さです。つまり、地球を2万回、周らなければならない距離ということです。「はやぶさ2」はそこまで行って、また8億キロメートルの距離をこれから戻ってくるということです。

では、「はやぶさ2」はどうやってそこまで行って、また戻ってくるのでしょうか。エンジンも付いていますが、そんな遠くまで行く燃料も積めません。他の方法を使っているのです。実は、先ほど話した地球の重力をうまく使っているのです（高学年の児童に協力してもらおう。児童に手を伸ばして真っすぐに歩いてもらい、途中で教員がその児童の手を取り、引っ張りながら回転する。児童は小走りになり、回転した方向に進む）。

この様子を、簡単な実験道具で見せてみたいと思います（実験をしてみせる。ネオジウム磁石が張り付けてある近くに鉄球を転がし、鉄球の速度が上がる様子を見せる）。

このようにして、宇宙を走行する方法を「スイングバイ」といいます。こういった方法を他の星で繰り返しながら、燃料を節約して進んでいます。宇宙ならではの方法ですね。

「はやぶさ2」は、来年の暮れに戻ってくるということなので、また注目してみてください。いろいろな資料やデータを持ち帰ってくると思います。宇宙のいろいろなことがまた明らかにされるとと思います。楽しみですね。

## パタパタ・カードでSDGs

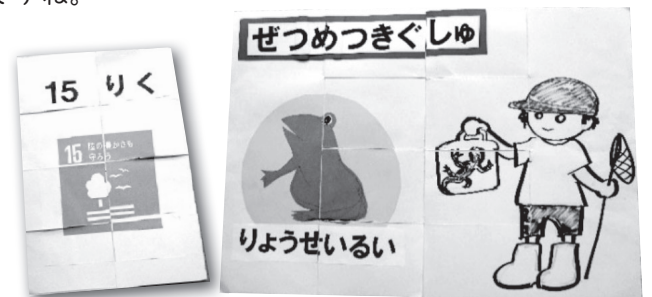
若狭町立気山小学校長  
三好 万里子

SDGsは、世界の193の国の人たちで決めた17個の目標で、2030年までの達成を目指しています。人間が今の暮らし方を続けると、未来がとても心配で、変える必要があるのです。

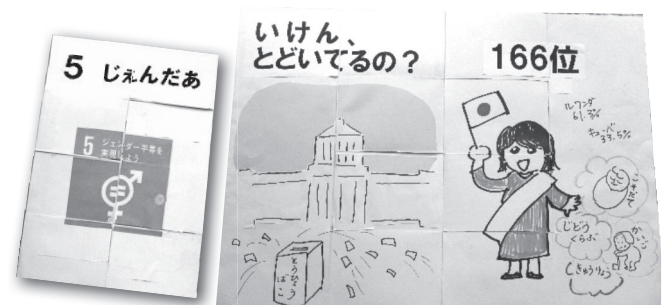
今、ご飯が十分に食べられず栄養が足りていない人はどれくらいいると思いますか？なんと8億人もいるそうです。アフリカでは3人に1人です。逆に、日本では食べ物を年間600万トンも捨てています。どう思いますか。



先週、全校でカヤ田の自然観察会に行きました。カヤ田には、数多くの種類の生き物が棲んでいましたね。カエルやイモリの仲間を両生類といいます。絶滅の危機にある両生類が42%もいるそうです。守りたいですね。



みなさんは、「日本は平和で豊かな国だ」と思っていますよね。でも、191か国中166位という、残念な順位の調査があります。それは、国会議員に占める女性の割合です。女性の意見が国に届いているか心配ですね。



SDGsには「誰一人取り残さない」という約束があります。「自分さえよければ」という暮らし方は、地球を滅ぼしかねません。小学生のあなたが、今、この瞬間からできること。それは、他の人や生き物や世界について「考えること」です。

## 新任校長の言葉

### 一人一人が輝き 共に育つ学校に

福井市安居小学校長 齋藤 瑞恵

一人一台端末が配備され、まさに令和3年度はGIGAスクール元年と言えます。まずは、一台一台に管理番号等のラベルを貼り、保管庫の準備をして、「とにかく使ってください」というところからのスタートでした。早速若手教員が授業で使い始め、GIGAスクール担当教員がiPadの使い方について校内研修を企画してくれました。職員室ではベテラン教員が若手教員に使い方を尋ねる姿が見られるなどOJTも行われており、先生方の新しい物を取り入れるバイタリティーと積極性に頭が下がる思いです。

子どもたちはと言えば、そう抵抗もなく端末を手に集中して学習に取り組んでいる姿が見られます。子どもの順応性は予想以上でした。

端末の活用で広がる様々な学びのかたちについてはこれから模索しながら授業実践を重ね、その効果を検証していかなくてはなりません。楽しみながら実践し、学びを豊かにできればと考えています。

『一人一人が輝き、共に育つ』学校に。これは子どもだけでなく教職員にも当てはまります。「こんなこともできるよ」「こういうふうに使えば効果があった」と教職員による協働的な学びが無理なくできる職場環境を整えていきたいと考えています。そして、子どもも教職員も学びを楽しめる、そんな学校づくりを行っていききたいと思います。

### 「50cm改革を目指して」

永平寺町吉野小学校長 佐々木 和人

変異株により、新型コロナウイルス感染が拡がり、今年も変更に次ぐ変更の中でのスタートになりました。また、学校にはタブレットが一気に導入され、その有効な活用と、それを指導する我々教職員のスキルの向上が課題となってきており、各校で取組が始まっていることと思います。

本校では、タブレットを活用できる先生と、ほぼ初心者の先生の二人をタブレット担当としました。「こんなこと今さら聞けないことを研修の計画として挙げましょう」とお伝えし、計画を立て研修しています。何事も同様ですが、少し分かるようになると次への意欲につながっていきます。結果、5月下旬ごろ4学年以上は、タブレットを使って学年懇談会をすることができました。低学年も担任が懇談の説明動画を撮影し、ホームページにアップすることができました。

ところで、行事が延期や変更になったことにより、行事同士の間隔が短くなったり、打ち合わせが増えたりして、少しずつ先生方の負担が大きくなってきています。校長として、本校の教育方針である「自主・自立」を目指し、中・長期的な視点をしっかりもち、手が届く50cm前のことから改革していくことを続けていきたいと思っています。

### 私の学校ではなく、みんなの学校へ

勝山市立荒土小学校長 前野 英治

スクールプランづくり。新学期が始まり、校長が真っ先に取りかからなければならない大仕事です。

早速、4月1日と2日の二日間、職員一人一人と面談して、先生方の「やってみたいこと」や「チャレンジしたいこと」を聞き取り、「それ、いいですね。やりましょう!」と言いながら、せっせとメモ。そのメモしたことを全てスクールプランに書いていったら、いつの間にか、皆さんの「やりたい!」でいっぱいスクールプランが出来上がりました。やおら、職員室も活気付いていて、皆さん、とても楽しそう。

「ありがとうノート」新学期がスタートして新しいノートを1冊購入。一人あたり4ページずつで、職員の名前をタックシールに書いて貼ります。そして、毎日、退校する前に一日を振り返って、思いつくままに先生方の頑張りや子どもに対する素敵な言葉がけなどをせっせとメモ。語尾はなるべく、「～してくれてありがとう」。

これで、終わりではありません。週に1回、先生方から提出される週案に、この「ありがとうノート」を見ながら感謝のコメントを書き写します。すると、先生方に対する信頼感や感謝の気持ちで心がホコホコとできてとても幸せな気分になってくるのです。

### 藤野巖九郎先生の志を受け継いで

あわら市本荘小学校長 虎尾 茂樹

中国の文豪、魯迅が生涯恩師と慕い続けた藤野巖九郎先生が生まれ育った地区に本校は在ります。藤野先生が現在の東北大学で解剖学の教鞭をとっていた時に、中国からの留学生、魯迅と出会いました。医学を志す者に国や人種は関係ないという信念のもと、医術だけでなく人としての在るべき姿を魯迅に愛情深く教えたのです。

その後、魯迅は中国に戻り作家として活躍、藤野先生は故郷に戻り一人の町医者として、貧富の区別なく庶民のために人々の命を守り続けました。その功績は今も語り継がれています。

私は、今のコロナ禍においてこそ、「命を大事にすること」「差別や偏見をなくすこと」「人のために尽くすこと」がとても大事なことだと考えています。それは正しく藤野先生の生き方そのものなのです。この素晴らしい先人の生き方を子どもたち自身が学び、何かを感じ取ってもらえるような仕掛けができればと考えています。

そのためにも教職員が丸丸となって系統的な学習プランを立て、地域も巻き込みながら実践を進めていきたいと考えています。

そして、本校の子どもたちが、自分たちの住む地域に誇りと愛着をもち、将来、自信をもって大きな世界へと羽ばたいてほしいと願っています。

## 学校が教えてくれたこと

越前町立城崎小学校長 山野 裕子

目の前に広がる大海原。鮮やかな緑の山並みと鳥のさえずりに包まれる校舎。ぴちぴち跳ねる、とれたての魚のように元気な子どもたち。先生方にと、水揚げされたばかりのホタルイカを届けてくれる漁師のお父さん。

越前海岸沿いの高台に立つ城崎小学校に着任し、私の頭の中に渦巻いていた難しい言葉や、あれやこれやの悩みと迷いは小さくなっていきました。

「この環境、この学校だからできる教育をしよう」

「子どもたちには、のびのびとたくましく育ててほしい」

「小さなことにこだわらない、広い心をもとう」

こんな思いが、自然とわき上がってきたのです。

社会は劇的に変わるとか、予測困難な時代とか、何度も聞かされイメージだけしていたことが、現実となりました。そんな今、私が本当に大切にしたいのは、リアルな体験や直接的な人との関わり、ねばり強さやたくましさといった「人間の根っこ」を育てることだったのだと、この学校が教えてくれたと言えるかもしれません。

魅力的な先生方に、頼もしい教頭先生。愛にあふれる保護者や地域の方々。船出するには十分に心強い仲間がいます。私は校長として、分かりやすい言葉で思いを伝える羅針盤に、時には安心できる灯台やアンカーになれるよう、努めていきたいと思えます。

## 「コウノトリ」からの学び

越前市坂口小学校長 松谷 昭子

福井県の県鳥が、昭和40年前後の一時期「コウノトリ」だったことをご存知ですか？かつてコウノトリは、県民に親しまれた身近な鳥だったようです。

学校から見える人工巣塔では、そのコウノトリのペアが、3羽のひなの子育て真っ最中です。児童は、玄関前の望遠鏡をのぞき、驚く速さで成長していくひなの様子や、親鳥が交代で一生懸命にえさを運ぶ様子を観察しています。また、昔、羽飾りとして輸出するため殺されたり、有害な農薬が使われ餌のカエルやドジョウがいなくなったりしたことで、コウノトリが日本からいなくなったことなども教わりました。

坂口地区は、15年以上も前からビオトープを作ったり休耕田でドジョウの繁殖をしたりして、コウノトリのための環境保全に力を入れており、望遠鏡の周りには、児童と一緒にひなの成長を心から喜んでいる近所の人々の姿も多く見られます。無農薬のコメ作りでも、地域の方々と一緒に、児童も田植えや草取りに汗しています。

ひなは7月には巣立ち、秋の間は坂口の空を飛び回っているはず。この「コウノトリ」の学びを通して、児童が生命の輝きや環境保全の大切さに気付くとともに、地域の人々の思いもしっかり受け取り、ふるさとを愛する大人に育ててくれることを願っています。

## あるニュースから

敦賀市立敦賀西小学校長 栗城 信市

先日、ある水産業者のニュースを見ました。その業者は、おいしい魚と持続可能な漁業を追求し、養殖によりカンパチのブランド化を推進しています。値が張りますがおいしい極上のカンパチを提供しています。しかし、軌道に乗った経営がコロナ禍により大きなピンチを迎えました。ブランド化したカンパチを卸していた多くの店が休業となり、売れません。ブランドを捨て安価で売れば、カンパチは売れるかもしれませんが、今まで何年もかけて作りあげたブランドカンパチが消えてしまいます。水産業者が葛藤します。そして、出した結論。ブランドを守り、新しい挑戦を始めます。店に頼み込んでランチ時にカンパチを提供してもらうことにしました。大きな商売にはなりません、待っていても始まりません。「今までのやり方では生きていけない。変わらなければ」。

私が学生の時に過ごした教室とは全く違った風景が広がります。子どもたちはタブレットを操っています。10年後、今学校で学んでいる子どもたちが生きる社会は、どう変化を遂げているのでしょうか。困難にぶつかったとき、苦しみながらも考え抜いて、自分の道を切り拓く勇氣、そして力が必要です。この水産業者のように、決してへこたれない、そんな子どもたちを育てていきたいと思えました。

## 挑戦と協働

小浜市立加斗小学校長 田中 悟

着任して約三か月が過ぎようとしています。行政からの転任でまず学校のリズムに慣れるところから始まりましたが、徐々にペースを取り戻しつつあるといったところです。小規模の学校でベテラン教職員が多いため、任せておける部分が多いものの、新しいことに挑戦するといった点ではやや課題があるとも言えます。コロナ禍での行事の在り方やタブレット端末の活用など、教職員にはこれまでにない変革が求められていると実感します。

そんな中で教職員に求めたのは「挑戦と協働」です。これまで教職員の独自性で様々な活動が展開されてきましたが、それぞれの活動のつながりを意識したり、学年の枠を超えて連携したり、役割分担したりということが少なかったように思います。一人一人の教職員の発想や思いをチームとして取り上げて膨らませていく、そんな教職員集団に高めていきたいと考えています。

そこで、まずはふるさと学習の取組をプロジェクトチームによって進めることから始めています。これまで6年生が行っていたシーカヤック活動や蒼島学習という地域探究活動を「山や海に親しむ学習」として全学年の活動にしていく計画です。PTAや地域の方々とのつながりを深めつつ、教職員が互いの力を高め合うために校長としてどう動くか、試行錯誤の毎日です。

### 編集後記

この度、「會報」113号を発行する運びとなりました。新型コロナウイルス感染症対策のため、5月の県小学校長学校運営研究大会が中止となり、他の会議や研修会もオンラインでの開催となることが増えました。予測困難な状況の中だからこそ、私たちは互いの思いを伝え合ったり、情報を共有したりすることの必要性を改めて感じ、その方法を模索しています。この「會報」や県小学校長会ホームページでの発信がその一助になれば幸いです。言葉を寄せていただきました県教育委員会教育長 豊北欽一様をはじめ会員の皆様には、様々な対応でお忙しい中、原稿執筆へのご協力を賜りましたことに対し、深く感謝申し上げます。